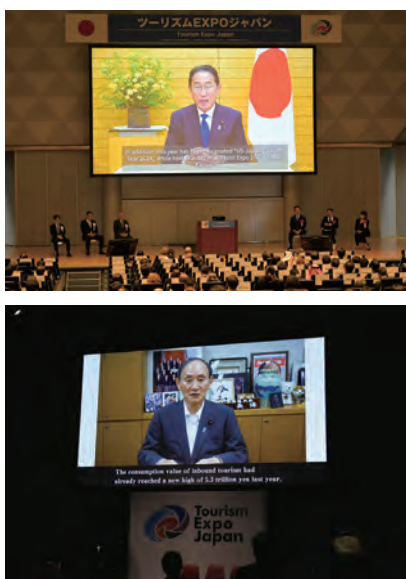




1 今年で10年目を迎えたTEJのオープニングセレモニー、2 観光大臣会合には9カ国・4団体が参加、テーマは「新しい旅の創造」、3 国内外から119件の応募があった「ジャパン・ツーリズム・アワード」、4 WELCOME RECEPTIONで披露されたインドの伝統舞踊カタカリダンス



開会式(上)では岸田文雄首相からの、WELCOME RECEPTION(下)では菅義偉前首相からのビデオメッセージが披露された

世界の観光リーダーが描く新しい旅のカたち 高付加価値旅行、若者へのアプローチ、万博機運を力に

ツーリズムEXPOジャパン(TEJ) 2024が26日に開幕し、国内外の観光リーダーが登壇したフォーラム&セミナーや展示会、商談会などに多数の業界関係者が参加した。今年のテーマは「旅、それは新たな価値との遭遇」。高橋広行TEJ実行委員長は記者会見で「今回はコロナ禍を乗り越えてのまさに本格的なイベント。日本のツーリズムの復活を世界に向けて発信したい」と意気込むとともに、地震や豪雨など自然災害が相次いだ北陸地方の状況に言及。会場での物産展やパネル展、募金なども通じ、旅のチカラによる復興の必要性を訴えた。

開会式では、岸田文雄首相がビデオメッセージを寄せた。「観光は日本の成長戦略の柱であり、地域活性化の切り札。訪日旅行が旅行者数、消費額ともに好調で地域の持続的な成長にも資する一方で、海外旅行の回復は道半ばだ。次世代を担う青少年による双方向交流の促進など、今回のイベントも拡大の一步になるだろう」と観光産業への期待感を示すとともに、オーバーツーリズム対策の必要性についても触れた。

2024年は日本の海外渡航自由化60周年の節目の年だ。高橋委員長は、今回のTEJ出展者が国内47都道府県に加

え、海外から80カ国・地域に上ったことに言及し、「世界の国々は日本人観光客を待ち望んでいる」と強調。さらにTEJスペシャル・サポーターの俳優・山口智子さんは、「旅の醍醐味は体験。人生における感動はほとんど旅から得た。世界をもっと知って地球を体験しましょう」と呼びかけた。午後開催された基調パネルディスカッションは「観光交流人口の拡大」を議題に、アドベンチャーツーリズムや地方創生、オーバーツーリズム対策といった観光産業の未来について、送客と受入双方からの議論が交わされた。

新たな旅の価値を追求するのは世界も同様だ。9カ国と4団体の観光行政トップが集った第7回TEJ観光大臣会合では、次世代を担う若者へのアプローチ、ガストロノミーや自然、文化など高付加価値型ツーリズムの将来性と課題など、あらゆる観点から世界の最前線を共有した。

今回のTEJは観光産業の再生につながる2025年大阪・関西万博の機運醸成も担っている。内閣府特命担当大臣で国際博覧会担当大臣の自見はなこ氏も挨拶に立ち、各国との国際交流や文化交流による相互理解促進、万博を契機にした地方誘客、ビジネスの活性化などについて説明し、旅行業界との連携を訴えた。

基調パネルディスカッション | 観光交流人口の拡大



ヨーロッパ旅行委員会 (ETC) エグゼクティブ ディレクター エドワード・サンタンデル氏
 株式会社さとゆめ 代表取締役 CEO 嶋田 俊平氏
 鶴雅リゾート株式会社 取締役 アドベンチャー事業部部长 高田 茂氏
 株式会社JTB 代表取締役 社長執行役員 山北 栄二郎氏

モデレーター: 株式会社コネクトワールドワイド・ジャパン 代表取締役 マージョリー・デュエイ氏

サステナブルな精神とパートナーシップを重視

基調パネルディスカッションでは、国内外の様々な地域・団体がどのようにして観光交流人口を拡大し、地域の発展につなげていくかについて意見を交わした。まずパネリストが、アドベンチャーツーリズムや地域創生支援、欧州の観光団体、送受の両方に関わる旅行会社という、それぞれの立場から取り組みを紹介した。北海道でアドベンチャーツーリズム事業を展開する鶴雅リゾートの高田氏は、「観光交流人口の“程よい拡大”にはアドベンチャーツーリズムが最適」と強調。サステナブルな精神を持ち、地域の人々と交流したい観光客を呼び込むことによって地域が守られ潤うとした。

全国各地で地域創生事業を展開するさとゆめの嶋田氏は、山梨県小菅村を例に村を丸ごとホテルに見立てるケースを取り上げ、村内の各空き家を改装し住民も運営に参画する“ホテル”に国内外から多くの観光客が訪れていることなどを紹介。「空き家や無人駅など地域の課題が観光資源になる」と説明した。ヨーロッパ観光委員会のサンタンデル氏はオーバーツーリズムをグローバルな課題として捉えることを提言。消費者の行動や環境への影響といった様々な角度からモニタリングし、未来を見据えたインフラを構成していくことが重要だとした。

JTBの山北氏は、交流創造産業推進の一環として、山梨県や高松市で行う観光客を分散させるための取り組みや、他の企業と協力し収穫期の青森のリンゴ農園に人材を派遣し支援している事例などを紹介。モデレーターのデュエイ氏から様々なコミュニティの人たちと協力するために重要なことを問われ、「理解すること、人々の話を聞いて問題解決していくこと、そして企業や政府など多くの人たちを巻き込むことだ」とした。

後段の、新たな観光交流人口をいかに創るかとの課題については、人材育成の遅れや、オーバーツーリズム対策として地域の観光受け入れキャパシティの見極めの重要性、官民パートナーシップ拡大の必要性などの意見が交わされた。

第7回 TEJ 観光大臣会合



未来を見据えて「旅」を再構築

9カ国と4団体の代表が最前線を意見交換

日本を含む9カ国の観光大臣・観光行政を担うリーダーと4国際観光組織の代表計13名が参加したTEJ観光大臣会合。世界の観光市場が急速に回復する中でさらなる成長を目指すため、どのように新たな旅の創造に取り組むべきか意見交換した。量から質への転換、次世代を担う若者へのメッセージ、持続可能な地域再生、高付加価値化への転換など様々な知見を共有した。

ウェルカムメッセージ



各国のリーダーが手を携えて新しい旅の創造を

国連世界観光機関(UN Tourism) アジア太平洋部 部長
 ハリー・ファン氏

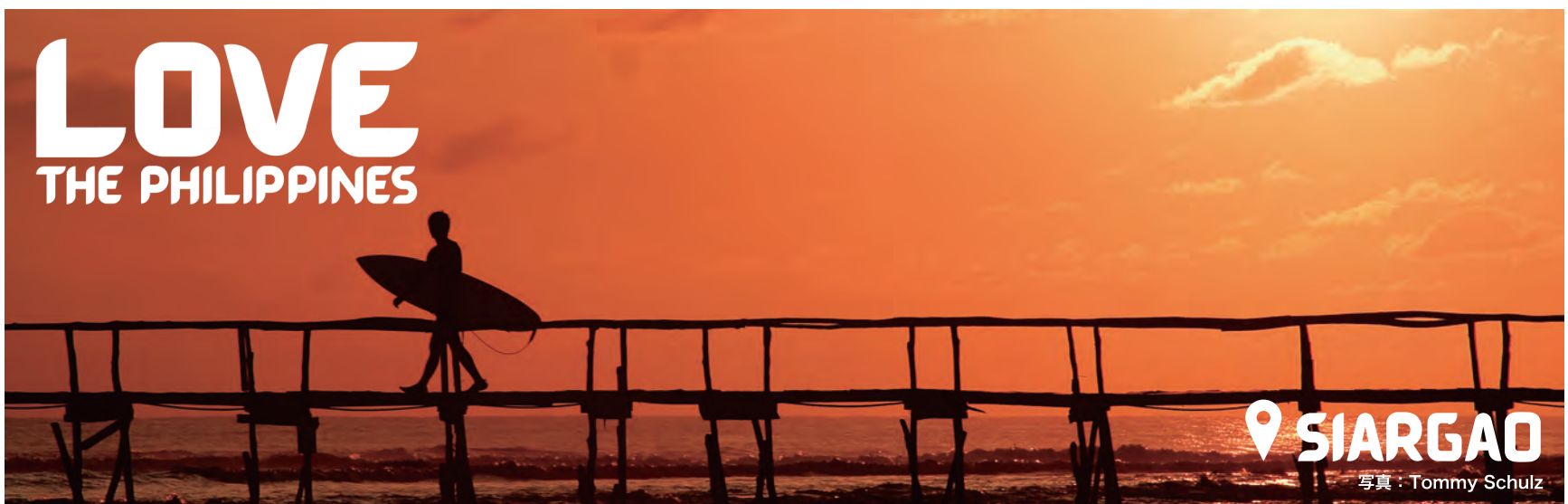
「新しい旅の創造」というテーマはUNツーリズムの使命と共鳴するものだ。観光業には地政学的な課題だけでなく、サステナブルで包括的な経済成長、環境への責任、女性や若者の雇用促進など、根本的に変えるべき点がある。また変革のためにはAIの活用、起業家精神、若者の教育が不可欠だ。観光業は、SDGsが掲げる17のゴールすべてに貢献できる産業でもある。世界がかつてないほど観光の重要性を認識している今、各国のリーダーが集うツーリズムEXPOが、課題解決のプラットフォームとなることを期待している。



地域没入型のプログラムで文化の架け橋を築きたい

フィリピン共和国 観光大臣
 クリステリーナ・ガルシア・フラスコ氏
 (代理: 駐日フィリピン共和国特命全権大使 ミレーン・J・ガルシア・アルバノ氏)

旅行者が質の高い体験を求めていることを受け、企画されたのが「フィリピン体験プログラム」だ。一般家庭でのホームステイ、職人から伝統工芸を学ぶワークショップ、パラワンでのサンゴ植樹やボホールでの野生生物保護プログラムのほか、僻地での学校建設、農業プロジェクト参加など各地域でのボランティア活動も用意された。海を越え、文化間の架け橋が築かれることを期待している。



新たな旅の創造



地域一丸の保全活動が旅行者の誘致につながる

ブルネイ・ダルサラーム国 一次資源・観光省大臣
ダト・アブドゥル・マナフ・メツシン氏

観光業が高品質な観光を推進し、AIなどのトレンドに適応していくには、柔軟な感性を持つ若い人材の活躍が不可欠だ。

旅行者は有意義な体験を求めている。リジューネイティブツーリズムを地域コミュニティの文化体験と合わせることで、体験の価値が高まり、環境ならびに地域社会への還元も進む。ASEAN 6カ国が一丸となり、若い人を呼び込み、環境と文化の保全に取り組むことが重要だ。



11のモデル地域選定し地方へ誘客レジリエンス強化も

日本 国土交通大臣政務官
尾崎 正直氏

訪日旅行者は回復傾向であるが3大都市圏に集中している。地方部への誘客を促進し、消費を拡大していくことが重要だ。

そのため高付加価値なインバウンド観光地づくりに取り組む11のモデル地域を選定した。また持続可能な観光地づくりには、災害時の危機管理や復興への知見なども必要。2024年11月に、UN ツーリズムと連携して仙台で国際会議「観光レジリエンスサミット」を開催する。



自然、文化遺産、ハイエンド、ビジネス分野で高付加価値化推進

マレーシア 観光芸術文化省 観光担当次官
ドクター・ヤスミン・ヤシム氏

2020～30年の観光政策に沿って、自然、文化遺産、ハイエンド、ビジネスの4分野で高付加価値観光に注力している。自然

保全活動と環境にやさしい観光商品開発、没入型の文化体験、本物を求める目的の肥えた観光客のニーズへの対応、持続可能性と包括性を重視したビジネス観光客誘致などだ。独自の強みを活かし、経済だけでなく国民と地球にとってよいものになるよう努めていく。



エマージングな国としてサステナブル観光を促進

ウズベキスタン共和国 観光委員会 観光委員長
ウミド・シャディエフ氏

ウズベキスタンはエマージングな国として、2027年を「サステナブル観光年」と位置付け、国内外で認知を高めたいと考えている。旅はウズベキスタンのアイデンティティ。シルクロード

関連の遺跡の保護と活用など、未来に向けて投資し新たな発展につなげていく。ウズベキスタンは、国民の平均年齢が27歳という若い国。雇用創出の面でも観光は重要で、成長をサステナブルな形で促進していきたい。



文化観光は困難な現代結びつける最も重要な手段

ブルガリア共和国 観光大臣
エフティム・ミロシェフ氏

文化観光の発展はブルガリアの優先課題の一つだ。ブルガリアは欧州において、3番目に遺跡や文化遺産が多く、その数は

4万超。ユネスコ自然・文化遺産に10件、無形文化遺産も5件登録されている。文化観光はこの困難な現代において、異なる国、文化、宗教を結びつける最も重要な手段だと信じている。2025年に第47回世界遺産委員会をブルガリアで開催できることを大変光栄に思う。



持続可能な観光による地域発展とイノベーション推進

ギリシャ共和国 観光大臣
オルガ・ケファロヴァ氏

グローバル経済にとって観光は大きな原動力であるものの、持続可能な繁栄を享受するには戦略面でのシフトが重要で

ある。長期的にはイノベーション、本物志向を推進し、持続可能な地域開発を行う。観光業のポジティブな影響が地域に発展をもたらす。住民と旅行者にとってより良い交通システムの改善、グリーンエネルギー・イニシアチブ、持続可能な天然資源の管理がサステナブルな地域の発展に貢献する。



若者の創造性を活かす責任ある観光と地域社会への貢献

モンテネグロ 観光大臣
シモニダ・コルディック氏

観光は単なる産業ではなく、ともに平和、安定を実現できる場であることが重要である。次世代の観光を担う若者へは、彼ら

が重視する社会的・環境的な意義を強調し、責任ある持続可能な旅を通じて自然資源や文化の保護、地域経済へ貢献できることを伝えたい。観光が持続可能であるためには、質重視で旅行者を魅了し、本物の体験、地域の価値を維持し、普遍的なものとして促進する必要がある。



アメリカをプレミアムな旅先に多様な文化をアピールへ

アメリカ合衆国 米商務省 全米旅行観光局/上級政策アドバイザー/アウトリーチアンドエンゲージメント チームリーダー
カート・コトル氏

持続可能性への配慮やテクノロジーへの投資を通して、アメリカを高付加価値かつ

プレミアムな旅行先にしていきたい。多様な民族文化を背景とした、食やコミュニティの魅力発信も重要だ。一方で、観光の脆弱な面について、災害、気候変動、公衆衛生の対策も官民を挙げて推し進めていく。観光の力は雇用を生み出し、アメリカの経済を成長していく上でも重要だ。



独自性活かした質重視の観光戦略と美食文化の振興

ヨーロッパ旅行委員会(ETC) エグゼクティブディレクター
エドゥアルド・サンタンデル氏

地域の価値向上には歴史や文化、自然、特産品など地域の独自性を強調し、量より

質を重視する必要がある。欧州ではガストロノミーツーリズムが成功しているが、価値ある観光産業の創出には、地域の文化や伝統を活かした厳選した体験の提供が欠かせない。地元文化や伝統を重視した価値の高い観光を提供するということだ。ETC日本支部ではJATAと協力し、美食文化振興のキャンペーン「Oisii Europe」を計画 중이다。



DXやテクノロジーを駆使して実践的なアプローチを

東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)
マネージングディレクター
アラジン・リオ氏

サステナブルな結果をもたらすために、どのように実践的なアプローチをしてい

くか。そのためには次の点を考慮する必要がある。様々なステークホルダーが協力してサステナブルツーリズムの発展に努めること、これまで発展させてきたフレームワークなどを活用して包括的な実施計画を立てていくこと、DXやテクノロジーを駆使しながら世界や各国の変化に適切に対応していくことだ。



人材の育成・確保に向けて、若者へ観光産業の魅力発信

世界旅行ツーリズム協議会(WTTC)
アジア・太平洋地域マネージング・ディレクター
リス・オルティゲラ氏

観光産業では今後10年間で新たに6400万人の雇用が必要となるため、若い

人材を育成していかなければならない。そのためには若者に業界の魅力を発信する必要がある。サステナビリティに貢献し、イノベーションに満ちていること、起業家精神を発揮できること、多様なキャリアパスが開けていることを示していかなければならない。仕事にモチベーションが持てる環境づくりも重要だ。

モデレーター



「新たな旅の創造」のための3つの着眼点について

株式会社コネクトワールドワイド・ジャパン 代表取締役
マージョリー・デューイ氏

若者は、旅行者としても、旅行・観光業界の労働者としても、旅行の未来の鍵となる。彼らに旅の提唱者にな

ってもらうにはどうすればよいか。また、どのように持続可能な形で観光の質を高めていくのか。文化観光が、旅行者と観光業界にどのような付加価値をつくり出し、出しているのかなど、3つの観点から有意義な意見交換ができた。

サウジコーヒーと
デーツでお待ちしています!
東3ホールR-174ブースへ

Saudi
Welcome
to Arabia

